

「市民・事業所（企業）・市・社協が協働し、 コロナ禍のフードドライブ&パントリー活動を実施」

社会福祉法人野々市市社会福祉協議会

新型コロナウイルス感染症の影響による収入の減少から、厳しい生活を余儀なくされている市内ひとり暮らしの学生・ひとり親家庭を対象に、フードドライブとフードパントリーを実施しています。

市民の協力による大きな力

本会では、第2期地域福祉活動計画を推進する等、地域の支えあいのしくみづくりを多くの福祉関係団体、ボランティア等の市民の方々や、市内事業所（企業）、市と協働し進めてきました。こうしたこれまでのつながりを活かし、フードドライブ（ご家庭で眠っている食品等の寄付）では個人の方をはじめ、市内事業所（企業）や市内団体の方々よりたくさんのご協力をいただきました。また、これまで地域福祉で関わっている市民の方がご自分の所属する団体へチラシを配布してくださり、団体で食品を集めて寄贈くださる方もいらっしゃいました。他にも、以前より加入しているいしかわフードバンク・ネットからも提供いただきました。

気持ちを届けたい



12月実施回ではひとり親家庭 100世帯にお届けしました。

令和2年度は、7月、8月、10月、12月、1月の計5回実施。フードパントリー（「食品無料配布会」フードドライブで集まった食品を必要な方々に配布）の周知については、市内に立地する金沢工業大学、石川県立大学等から学生へ、市からひとり親家庭へ、周知協力をいただきました。

食品を受け取った方々は「たくさん
の食品をありがとうございます」
「助かります」「食べ盛りの子ども
にあげられます」「スタッフの方々

が優しくうれしかったです」と口々におっしゃっていました。

これまで地域の方々と協働してきた社協の強みを生かし、コロナ禍で困窮している方への支援という緊急の地域課題に対応できました。また、この活動をとおして新たに関心をもっていただき、協力してもらえた企業や市民の方々も多く、さらに地域の支え合いの輪が広がりました。今後この事業を活かし市民の方々等と地道に地域課題に対応して取り組んでいきたいと思っております。



フードパントリーの運営は、食品の仕分け準備や当日の運営まで、市をはじめ、市内団体、企業、ボランティアの皆様が協力してくださりました。